

道の駅等を拠点とした自動運転サービス 「中間とりまとめ」骨子（案）

とりまとめ内容

- ◆ 平成29年度の実証実験において確認された事象や課題
- ◆ 今後の実証実験で検証すべき内容

1. 自動運転に対応した道路空間活用について

(1) 走行空間について

○実証実験で確認した事象

- ・ 厳しい道路構造や管理状況（植栽、積雪）における走行性
- ・ 一般車両や歩行者との混在空間における走行性

○今後の検証内容

- ・ 専用（又は優先）の走行空間の確保（時間帯による専用空間化含む）
- ・ 一般車両との混在空間における走行空間の明示方法
- ・ 円滑な走行のための地域の協力体制の構築
- ・ 交差点における走行方法

(2) 路車連携技術について

○実証実験で確認した事象

- ・ 厳しい気象（降雪、霧）、地域特有の条件下における走行性

○今後の検証内容

- ・ 電磁誘導線、磁気マーカの適切な埋設位置と区間
- ・ 路側インフラの位置づけ（道路占用物）

(3) 道の駅等の拠点空間について

○実証実験で確認した事象

- ・ 一般車両、二輪車や歩行者が混在する拠点空間における走行性
- ・ 乗客の乗り換え、貨物の乗せ換えの利便性

○今後の検証内容

- ・ 乗換えスペース、専用走行空間の確保

2. 中山間地域のニーズを踏まえた自動運転車両技術・運行管理等について

(1) 中山間地域のサービスに合わせた車両性能・機能

○実証実験で確認された事項

- ・ 社会受容性（走行の信頼性、快適性 等）

○今後の検証内容

- ・ サービス（福祉、物流等）に応じた車両定員・積載重量、構造

(2) 自動運転車両の運行方法について

○実証実験で確認された事項

- ・デマンド型や定期型など多様な運行ニーズ

○今後の検証内容

- ・地域の特性に応じた運行方法と必要な設備

(3) 事故等のリスクへの対応

○実証実験で確認された事項

- ・事故や故障時を想定した対応の検討
- ・走行中の車内の安全性

○今後の検証内容

- ・車内の安全確認方法と必要な設備

3. 道の駅等を拠点としたビジネスモデルについて

(1) 運営形態について

○実証実験で確認された課題

- ・運行主体の明確化
- ・事業スキームや役割分担の具体化

○今後の検証内容

- ・将来の運営体制を想定した実験実施
- ・地域の協力体制の構築（ボランティアによる運行支援等）

(2) 採算性確保の方策

○実証実験で確認された事項

- ・自動運転サービスの将来の利用意向
- ・ニーズに応じたサービス提供（走行ルート、使用車両等）
- ・高齢者の外出機会を誘発する取組みの必要性

○今後の検証内容

- ・長期間の実験による日常的な利用を通じた将来需要の把握
- ・費用の徴収も踏まえた事業採算性の検証

(3) 他事業との連携について

○実証実験で確認された事項

- ・各事業者のビジネスモデルとの具体的な連携

○今後の検証内容

- ・ビジネスモデルを想定した実験の実施と連携の有効性
- ・既存の交通事業（路線バス等）、福祉輸送サービスとの役割分担